

中国における創造都市政策の実践についての考察

中国社会科学院
中国文化研究中心
贾旭东



二十一世紀に入り、中国は文化産業の発展を国策とした。この背景には二つの課題がある。欧米日と共通する一つの課題は、都市の空洞化、都市病（大気汚染、交通渋滞）である。また中国で

は欧州、南米などと比べ二―三倍の速度で急激な都市化を進め、特徴のある小都市や農村作りも並行して進んでいる。その為、都市にあるべき文化施設の整備がなされていないなど、文化にまつわる問題が山積している。この中国の特殊事情が二つ目の課題だ。

中国の創造都市政策において前者の各国共通の課題に焦点を当てた事例としては、北京の「七九八芸術区」や陶溪川（景德镇）の「文化创意産業基地事業」や遵義市のクリエイティブ産業パーク「一九六四創意園」がある。北京や景德镇はユネスコの創造都市ネットワークにも登録されている。後者の中国の都市発展に伴う課題を解決するための創造都市政策として

は、「小城鎮（経済発展の過程で取り残された文化環境の整備が課題となっている中小規模都市）」の発展が重要である。例としては、廈門市の一等地にあった工場を改修した複合文化施設「廈門文化芸術センター」がある。このセンターは改修にあたって環境に配慮し、柱や電線ケーブルなどを全て再利用し、建築廃棄物を最小限にした。他の例として「東山ドキュメンタリータウン」、映画『狙った恋の落とし方』で日本でも知られる監督の名を冠した映画村「馮小剛映画公社」、国際インターネット会議の恒常的開催地であり、演劇フェスティバルも行う烏鎮、農村の事例として北京郊外にありアヴァンギャルドな芸術祭を行っている「宋荘画家村」を挙げる事ができる。

こうした創造都市政策の評価軸としては、生活における創造性（美学）、経済における創造性、多様な主体による創造的ガバナンス、環境形成の創造性、地方からの創造性のグローバル発信（日本の利賀村のような）から考察していくことが重要である。

Profile

贾旭东
JIA, Xudong

●中国社会科学院中国文化研究中心教授、常務副主任、専門は文化経済学、文化政策と法、文化発展理論及び実践、中日韓文化政策シンクタンクフォーラム発起人、「文化発展研究」編集長、中国全国人民代表大會（公共文化サービス保障法）立法専門家顧問、文化部「文化産業促進法」立法研究プロジェクト代表、文化部文化産業専門家委員会委員、著書に「利己と利他」、「CPIを超える…CPIからCPSへ」、「文化発展の理論と政策」、「人口高齢化と文化発展研究」等、多数。